

「地図豆」の地図を広げて街歩き

18-1 津山城下の街道をたどる（距離約 12.5km）

地図を広げて街歩き、野歩きをするためには、事前に地図から「面白い」を発見し、計画を立てなければならない

岡山県津山市（津山城）は、私がかねてから訪ねてみたいと思っていた場所だが、桜の名所として知られる城下町であるという以外に、当地の情報を入手していないし、現地も訪問していない。今回初めて地図を広げてみた。

その津山城下で、旧街道を見つける旅を計画してみよう。



！城東マップ | 散策2時間コース | 散策3時間コース | 散策4時間コース | 城東地区の小路のいわれ |

※下のマップの番号(●い〜わ)をクリックすると、詳しい情報がご覧になります。

い〜わ 城東の見どころ、1〜12 耳寄り情報、A〜X お食事・お土産・立寄り処



城東の見どころ	
い	苅田酒造 1 西美濃屋小路
ろ	苅田酒造東路地 2 美須屋小路
は	作州城東屋敷 3 国信小路
に	だんじり展示館 4 閑貫小路
ほ	河野美術館 5 梅楳小路
へ	箕作阮甫旧宅 6 長柄小路
と	茶屋の凌喉看板 7 松木小路
ち	城東むかし町家 8 福田屋小路
り	舟倉「若狭屋」 9 鶴田小路
ぬ	煙たし 10 札場小路
る	「大溝」造櫓 11 大隅小路
を	大曲がり 12 東美濃屋小路
わ	荒神曲がり 13 瓦屋小路

【道順】

00 J R津山駅→01 橋本町(東大番所跡) →02 宮川大橋東→03 美濃屋小路→04 作州城東屋敷→05 中之町並み→06 中之町(大曲がり) →07 箕作阮甫旧宅→08 大隅小路→09 東新町(荒神曲がり) →10 旧洋学資料館→11 千光寺→12 寺下通り→13 津山城→14 津山郷土博物館→15 田町武家屋敷→16 津山高校→17 鶴山八幡宮→18 西大番所跡→19 西寺町→20 鉄砲町→21 小性町→22 J R津山駅

【街歩き解説】

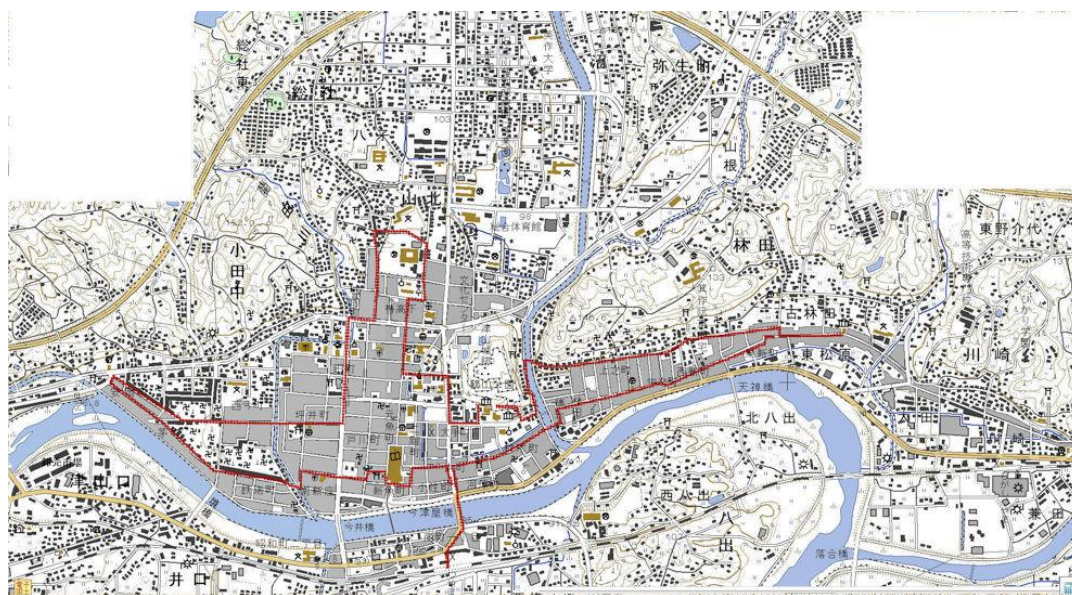
津山城は、二万五千分の一地図にも史跡名勝を示す地図記号とともに、「津山城址」とあ

るから、誰にでも分かるだろう。そして、すぐ近くには「大手町」とあって、過去には主要な武家屋敷があった場所なのだろうが、大きな屋敷跡は再開発も容易だから、すぐに取り壊されて、東京都の大手町に見られるように官庁やビジネスビルが並んでいるのが普通である。

津山市でも、大手町とあるあたりから北の城跡にかけては、周辺の道路に比べてやや整然としていて、官公庁の記号も見え、少々空き地も見えるから、むかしの風景に出会うのは難しいだろう。

もっと街全体をながめて、旧街道をたどりながら街歩きを楽しむための「面白い」を見つけてみよう。

東西に流れる川（「吉井川」）に並行して交通路が発達し、細長く広がった街の東西の端には、寺社の記号が多くある。



寺町は、敵の侵入や攻撃から街を守る目的もあったから、ここが旧来の街はずれの可能性が高い。墓地が併設された寺町なら、再開発もされにくいから風情が残っているだろう。そして、中心市街地を經由して東と西の寺町を結ぶ線上に旧街道があるはずだ。

茶色で表現されている現在の国道五三号線は現在の国道五三号線は、自動車交通のための適度な道幅を持ち、緩やかな曲線形となりしかも街の西では人口密集地を避けるように吉井川を南に渡っているから、旧街道ではないだろう。

国道よりもやや北に位置する「西新町」「林田町」「材木町」「河原町」「新魚町」「南新座」・・・「鉄砲町」などをつなぐ通りが、地名文字の並びや住宅の密集具合から旧街道と思われる。

城下町には、敵の侵入を防ぐ目的を持つ鍵の手になった特徴的な路地、「鍵曲がり」が残っている場合が多い。それは、地図を詳細に見ると発見できる。そして、「橋本」という地名は、河川の近くに位置して、橋のたもとの町を意味することが多い。

「鍵曲がり」のような道筋が見えた「東西新町」や「中之町」を経て、南北に流れる「宮川」を渡る「橋本町」が旧街道の通過ポイントである。

橋を西へ渡った先は、街の広がりに合わせてように、先ほどの「小性町（もとは小姓町か?）」を経て「鉄砲町」を経由する通りと、「鍵曲がり」の片鱗と思われる食い違いが交差点として残っている「元魚町」から「坪井町」へと向かう二つの通りが予想できる。

さらに、田町辺りから北方向にも食い違い交差点が残り、通りに沿った集落も発達しているから、「椿高下」を経て北へ向かう緩やかな曲がりのある通りも、旧街道として期待できるだろう。

地図に記載された地名からは、「橋本町」だけでなく「鉄砲町」「小性町」といった素人目にも、当時を思い浮かべられそうな地名が多く存在する。このようなポイントを訪ねると旧街道の風景に出会えるだろう。

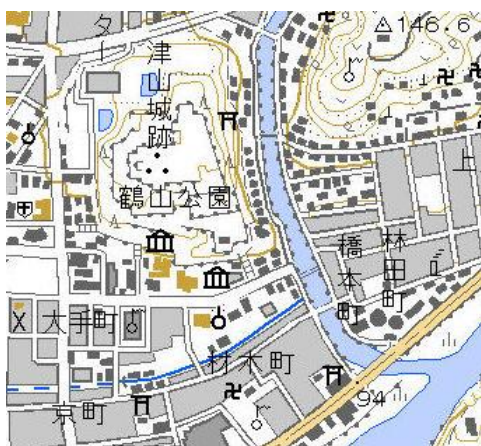
現在の地図を見ても、これだけのことがわかるから、明治大正期の旧版地図（入手方法などは付録参照）や江戸期の古地図を併せて参照すれば、もっと多くの推測ができるはずだ。自分なりの予想を立てて、街歩きをして「面白い」を発見するといい。

こうした勝手な予想をもとに、後日津山を訪れてみた。そのときのようすは、ここに順に記した通りで、ほぼ予想どおり。そこには、鍵曲がり、武家屋敷、町屋、寺町、小路から残された地名に至るまでたくさんの街道の風景に会えた。の街道の風景があった。

00 JR津山駅：JR津山駅から、津山城下旧街道歩きをスタートする。案内所で地図を受け取り、駅前の「水準点 53-061」を見る。

01 橋本町(東大番所跡)：出雲街道、宮川大橋の西詰には、津山城下(内町)への出入りを見張る、東の「大番所」があった。

02 宮川大橋東：宮川を渡った道は、「鍵曲がり」のように大きく北に折れる。



橋本町辺り

- 03 美濃屋小路：出雲街道の北側に延びるいくつかの小路には趣がある。
- 04 作州城東屋敷：河川跡にあたる道路中央部分が、小公園になっている。
- 05 中之町町並み：街道沿いには町家が、大溝（水路）を隔てた北側には武家屋敷と寺院が並んでいたという。
- 06 中之町（大曲がり）：「鍵曲がり」は、敵の侵入を防ぐ目的を持つ鍵の手になった特徴的な路地のこと。ここは、「大曲がり」と呼ばれている。
- 07 箕作阮甫旧宅：橋本町から西新町の間には、風情のある町家の家並が続き、医者で地理学にも造詣のあった箕作阮甫旧宅がある。
- 08 大隅小路：白壁が美しい大隅神社に続く大隅小路。
- 09 東新町（荒神曲がり）：今も作州鎌を作る家並の先に、「荒神曲がり」がある。



荒神曲がり・東新町



10 旧洋学資料館：元銀行だという赤レンガ造りの旧洋学資料館を見て市街地へもどる。

11 千光寺：静かな佇まいの上之町通りの南側には武家屋敷、北側には、みごとな枝垂れ桜のある千光寺のほか、多くの寺院が続く。

12 寺下通り：山手方向に寺院が連なる寺下通りから、入道坂へ続く静かな小路。

13 津山城：桜が有名な津山城（鶴山公園）は、石垣が見事である。



津山城へ

14 津山郷土博物館：旧市役所であったという立派な石造の津山郷土博物館は、美作の歴史と文化をテーマに展示している。

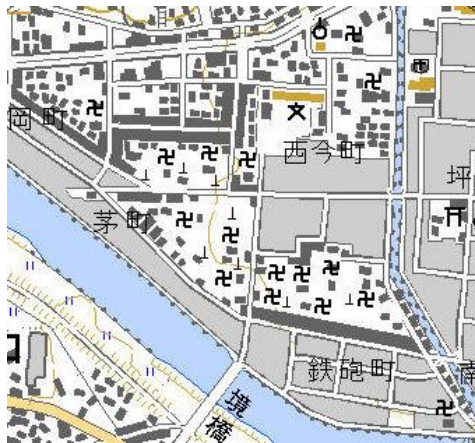
15 田町武家屋敷：田町には、今にも侍が出てきそうな旧武家屋敷が並ぶ。

16 津山高校：明治33年に建てられたという欧風建築の津山高校は、かつて朝ドラにも登場した。



津山高校

- 17 鶴山八幡宮：椿高下から北へ延びる道筋は、倉吉へ向かう旧街道である。それを示すように寺院と神社が並ぶ。
- 18 西大番所跡：翁橋の東詰には、津山城下（内町）への出入りを見張る東の「大番所」があったというから、ここが出雲街道の西からの入り口にあたる。
- 19 西寺町：出雲街道に沿って、城下の防衛のために配置されたという西寺町の寺院の並びには、圧倒される。



- 20 鉄砲町：鉄砲町には今も鉄砲火薬店が残る。中心市街地には、ほかに魚町、船頭町、細工町、鍛冶町などの地名が残る。
- 21 小性町：小性町、船頭町、職人町辺りにも、小さな鍵の手になった通りが残る。
- 22 J R津山駅：箕作阮甫像のあるJ R津山駅でお終い。